



第2回地球1つで暮らせるようにワークショップ

渋谷区立臨川小学校 x SWITCH | 実施報告書

●「地球1つで暮らせるようにワークショップ」開催目的

世界中の人が日本人と同じ水準の生活をするに、地球 2.9 個分が必要になるとされています。(National Footprint and Biocapacity Accounts 2022)より)。地球 1 個で暮らしていくためには何ができるのでしょうか。ワークショップを通して、地球規模の視野を持ち、自分たちの身の回りからできるアクションを考えることで、環境問題を自分ごととして身近に感じることを目指します。

● 概要

SWITCH 代表佐座からの国際的な気候変動の問題を動画やクイズを用いたのレクチャー後、「食べ残し」と「ゴミの分別」について学校生活の中で何ができるのかを具体的に考えるグループワークを行いました。世界や日本の小学校で行われた事例を紹介しながら自分たちの案をクラスから全校へ広げていくために実践するアクションの計画を話し合いました。

開催日時 | 2023年10月17日(火) 5年2組: 10:20~11:30 / 5年1組: 11:35~12:20

参加者合計 | 5年1組 26名 / 5年2組: 26名

会場 | 5年1組・2組の各教室

共催 | 渋谷区教育委員会・一般社団法人 SWITCH

協力 | 渋谷区立臨川小学校

● タイムテーブル (各回計 45 分)

10分 SWITCH 代表 佐座/気候変動・ゴミ問題についてのレクチャー

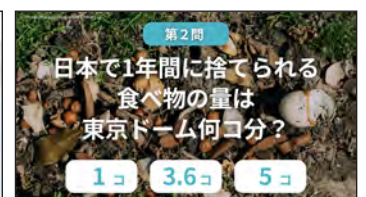
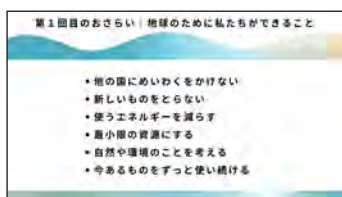
5分 第1回のおさらい

10分 世界や日本各地のゴミの分別・食べ残しの事例紹介

20分 クラスのみんなのできる計画を立てるワークショップ

● 一般社団法人 SWITCH | レクチャー

佐座の自己紹介後、日本人の暮らしを続けると地球が 2.9 個必要になる現状、日本で 1 年間に捨てられる量の実態をクイズを通して紹介。第一回授業のレクチャーで学んだこと、話し合いで出たアイデアのおさらい後、スウェーデンやアメリカ、日本各地の小学校で行っているごみや食べ残しに関する活動を紹介します。グループワークへと繋げました。



● グループワーク

第一回の授業であがった、「ゴミの分別」「食べ残し」を学校の中で解決するためのアイデアを具体的なアクションにするための計画を考えました。ワークシートを使いながら目標を定め、どうすれば問題を根本的に解決できるのかを話し合いました。

第3回目の授業までにアクションをスタートし、成果や改善点を発表します。

1組では「ゴミの分別」「食べ残し」の2つの問題について、2組では「食べ残し」の間についてより深く話し合いました。

<5年1組でのアクション計画>

ゴミ分別チーム

目標：「知ってもらおう、意識してもらおう」 アクション：「プラスチック用・リサイクル用のゴミ箱を増やす」「臨川小のごみ収集場を綺麗にして人が心地よく使うようにする」他

食べ残しチーム

目標：「全校に食品ロスを気づいてもらおう、他の国に繋がっていることを伝える」 アクション：「給食を家に持ってかえる」「1g減らそうキャンペーン」「食べ残すとどうなるかや、一年間で捨てられている量を身近なものに置き換えて紹介するポスターを掲出」他

<5年2組でのアクション計画>

目標：「まずは自分たちが食品ロスを減らし、その重要性を周りに広める」

アクション：「給食の食べ残しの量をはかり、捨てられている量を認識する」「1年間で捨てられている量を身近なものに置き換えてポスターにして掲出」他

目標達成

07 第3回目の授業に向けて今までのステップを振り返ろう

06 やって来てわかったことをまとめてみよう

05 続けたらどうなった？より良くしよう

04 良くする方法を続けてみよう

03 問題点をどうしたら良くできる？

02 今の問題点は？何が悪いかな？

01 今はどうなってる？現状を知ろう

食べ
残し

ごみ
分別

